

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2690600040		
法人名	医療法人 社団 都会		
事業所名	グループホーム 一乗寺ほっこり庵		
所在地	〒606-8116 京都府京都市左京区一乗寺宮ノ東町37 (電 話) 075-702-0385		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年7月27日	評価確定日	平成21年9月7日

【情報提供票より】(平成 21 年 6 月 7 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.9 人	

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円
敷 金	(有)(300,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	800 円	おやつ 300 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6 月 7 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低 74 歳	最高 90 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	社会保険京都病院 ・ 医療法人社団都会 渡辺病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、叡山電鉄一乗寺駅に近く、閑静な住宅の一角に木の風格ある建物の二階にグループホームがあります。開設して一年ということもあり木の香りがして落ち着いた雰囲気ホームです。ホーム理念は、地域に根差し、その人らしくほっこり出来る人の関わりと環境や時間を大切にされています。理念の思い通りにホームの雰囲気は利用者一人ひとりが生き生きと笑顔で自由に好きな場所で好きな事をされ、その人らしく過ごしやすい居場所を見つけられています。管理者をはじめ職員が暖かい目で見守り、熱い思いを持って支援されている様子が伺われました。また、利用者、家族、職員とも信頼関係が構築されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価です。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員全員で色々な意見を出し合って、まとめて作成しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、町会長、地域包括支援センター職員、管理者、職員が参加し、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しています。日々の利用者の状況報告や行事報告をし、地域へ防災避難訓練の協力を呼びかける等、活発な意見が出ています。また、意見の中から協力を得て、子供児童館からの発表会に来訪して貰い、地域交流のサービスの向上に繋げています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書にも苦情窓口が記載され、入居時に説明しています。運営推進会議の参加や来訪の際に声をかけをして意見を聞くことに努めています。意見、要望、苦情等があれば内容によっては随時、対応したり、職員会議で話し合い、運営推進会議で報告し、対応しています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設にあたり、地域密着型グループホームを地域住民に理解して頂く上で、法人のグループホームを見学に来訪して頂き、理解を得る努力をしています。町内会に加入し、地域の行事や近隣の公園の催し物や紫陽花祭り、盆踊り、地蔵盆、運動会にも参加し、子供児童館より発表会で来訪して貰い、ホームからも地域に向けて認知症サポーター講座、講師として出向き多くの交流に繋げています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員でホーム理念を作り、玄関に掲げています。ホーム名である「ほっこり」をキーワードとし、その人らしく、地域に根ざしそしてほっこりとした人生を送ってほしいとの思いを込めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関、スタッフルームに掲げています。管理者はじめ職員は、いつも理念に立ち返り、「その人らしくほっこりと」を意識しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設にあたり、地域密着型グループホームを地域住民に理解して頂くために、法人のグループホームを見学して頂き理解を得る努力をしています。町内会に加入し、近隣の公園の催しや紫陽花祭り、盆踊り、地藏盆、運動会等地域行事に参加するなど地域との交流に努めています。ホームは地域向け認知症サポーター講座に講師として出向いています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員が意見を出し合い管理者がまとめて作成しています。また、自己評価をもとに意見を出し合い改善シートを作成しました。利用者ができることを役割として具体化することで、利用者の自信に繋がるように取り組みが成されています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、町会長、地域包括支援センター職員、管理者、職員が参加し2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しています。日々の利用者の状況報告や行事報告をし、地域へ防災訓練の協力と参加支援を呼びかける等活発な意見が出ていますが、その内容が十分な記録として残っていません。	○	運営推進会議の議事録を、誰が見ても解りやすい工夫をされ、まとめられることを期待します。

グループホームー乗寺ほっこり庵

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの立ち上げ時から、何かにつけて市の担当者と相談し、協力関係ができています。市町村、地域包括支援センターと共に地域住民対象に認知症サポーター講座の講師として出向き、市町村と共にサービスの向上に取り組んでいます。ホーム開設時に市からの依頼でドイツから見学に来訪がありました。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪も多く頻繁で、来られた時には利用者の日々の暮らしの様子や健康状態等を報告し、何かあれば随時電話連絡をしています。金銭管理は預かり金対応で、現金出納帳に収支内容とレシートで報告を確認印を貰っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書にも苦情相談窓口を記載し、入居時に説明しています。運営推進会議や来訪の際に声かけをして意見を聞くことに努めています。意見、要望、苦情等があれば職員会議で話し合い、対応策と共に運営推進会議などで報告し、運営に反映しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の統括担当者が職員の相談を聞いています。職員間で話し合ったり、フォローしたり、力を合わせています。異動や離職の際には、利用者に説明し理解に繋げています。新人職員にはベテラン職員と一緒に付き添い馴染んで貰うまでは見守るケアに重点を置いています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修が2ヶ月に1回、講師を招いて全職員が参加しています。ホームではテーマを作り、勉強会や検討会をし、ケアの振り返りにもなっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加しています。地域のケアマネジャーや看護師からの要望があり、ホーム内で勉強会を開催し、お互いのサービスの向上に繋げています。また、外部からの見学があり、情報交換をしています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が居宅を何度も訪問をし、生活歴や自宅での様子を聞きながら信頼関係を作るように努めています。見学や面接に家族の協力を得ながら来訪してもらい、徐々に馴染んで貰っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を一緒に過ごす生活のパートナーとして位置付け、普段の生活の中で自然に喜怒哀楽を共有しています。調理の場面では職員以上の力を発揮し、人への思いやりや気遣いをして貰う事もあり、逆に職員が教えて貰ったりしています。家族の一員として共に支え合う馴染みの関係が構築されています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、入居前の生活歴や暮らしぶりの情報を得て利用者、家族の希望や意向の把握に努めています。また、日々の利用者との会話や行動から把握しています。意思疎通が困難な場合には素振りや表情、行動で把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との会話の中から希望や意見、要望を聞き、担当職員が介護計画を作成をしています。日々の記録から利用者の出来る事、出来ない事を読み取りケアプランに反映しています。家族の来訪時にカンファレンスを行い、状況によっては医師の意見を反映させています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回評価をし、変化がなければ6ヶ月で見直しています。見直しの際には利用者、家族、医師等が参加するカンファレンスを開催をしています。また、利用者の状況に変化があった場合には、その都度介護計画を作成しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望があれば化粧品等の買い物や外食、外出の支援をしています。また、祇園祭の際に利用者の希望で自宅に職員がついて帰られるなど柔軟な支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を聞いていますが、安心していただける上にも、ホームの24時間医療連携が出来ている提携医の説明をし、納得の上で同意を頂いています。提携医による往診は週2回あり、緊急時にはすぐ、対応できる関係が構築されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には法人の方針を伝え、将来的な思いを話し合っています。まだ、重度化、看取りはありませんが、重度化する中で家族と話し合いグループホームとして可能な範囲で対応する意向で、職員とは十分な話し合いには至っていません。	○	職員間で終末期の在り方を、ホームとしての可能な範囲や、重度化された利用者や家族への対応について論議が展開される事を期待いたします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけはお互いに注意しあい、記録物の取り扱いについても職員間で話し合い、お座成りにならないように心がけるようにしています。個人情報の記録物については鍵のかかる適切な場所に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活で基本的な流れはあるが、自由な暮らしを支援しています。利用者一人ひとりの生活歴や性格、個々のペースをもとに、声かけしながら、利用者が好きな場所で好きな事を行ない、自由に過ごされています。一人が歌い出し声につられて皆で歌い出すなど自然に歌声が聞こえてきます。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所は対面キッチンで、利用者が自然に手伝えるよう低い設計がなされています。利用者と一緒に献立を考えながら、食事の下ごしらえや配膳、下膳、後片付けを生き生きとされている様子や、食事も職員と楽しそうに会話をしながら食べられています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望を叶え、気持ち良く入浴出来るように支援しています。基本的に昼食後から夕方までに入浴していますが、希望によってはいつでも入浴が可能な状態です。拒否のある利用者にはタイミングを図ったり、職員を替えて声かけを工夫して入浴の支援をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームは、利用者に何らかの役割を担っていただき、自信を付けて欲しいと考えています。利用者が自主的に玄関先や庭の花木に水やりをされ、掃除や洗濯物干し、食事の準備等を楽しく会話をしながらされています。手すきの方には手伝ってもらえるように声をかけるなど役割作りを模索しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に合わせて散歩や買い物に出かけています。また買い物ついでに公園に寄り道をしたり自由に出歩けるように支援しています。出かけにくい人には外気浴をするなど工夫をしています。また、近隣の公園での催し、紫陽花祭り、お花見等へも出かけています。利用者の外出希望があれば、可能な限り外出の支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に日中は鍵を掛けない生活をしていますが、やむを得ない状況によっては一時的に施錠することがあります。センサーと職員の連携で外出傾向の利用者には、暖かく見守り、一緒に付き添い出かけています。全職員は鍵を掛けることの弊害を理解して取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っており、1回は消防署の立ち会いを受け、もう1回はホームの自主訓練を昼間想定で行っています。運営推進会議で地域の防災避難訓練へ利用者と職員の参加呼びかけとホームでの避難訓練に地域住民に参加協力を得られるよう声かけをしています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、水分量の充足を確認しています。利用者一人ひとりの状態に合わせ、柔らかめや刻んだり形態を変えた食事を提供しています。献立メニューや食事量を時々法人の栄養士に見て貰い、給食委員会から栄養バランスや摂取量確認の報告をして貰っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は明るく木のぬくもりと香りが漂う中、所々の共有空間やコーナーに季節の花や、利用者の趣味で作られた小物が飾られています。リビングは間接照明で落ち着いています。対面キッチンを利用者の体型に合わせた設定で多くの利用者が行き来し、楽しい会話や料理のおいしそうな香りがしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの入居前の生活のスタンスを崩さないよう家族の協力を得て、利用者が愛用されていた大切な絵画や茶箆筒と食器、テーブル、イス、時計、写真等で飾られています。好みに合わせて絨毯や畳にされる事もでき、居心地良く過ごされています。また、利用者の趣味を生かして作られている造花が居室やホーム内に飾られています。		